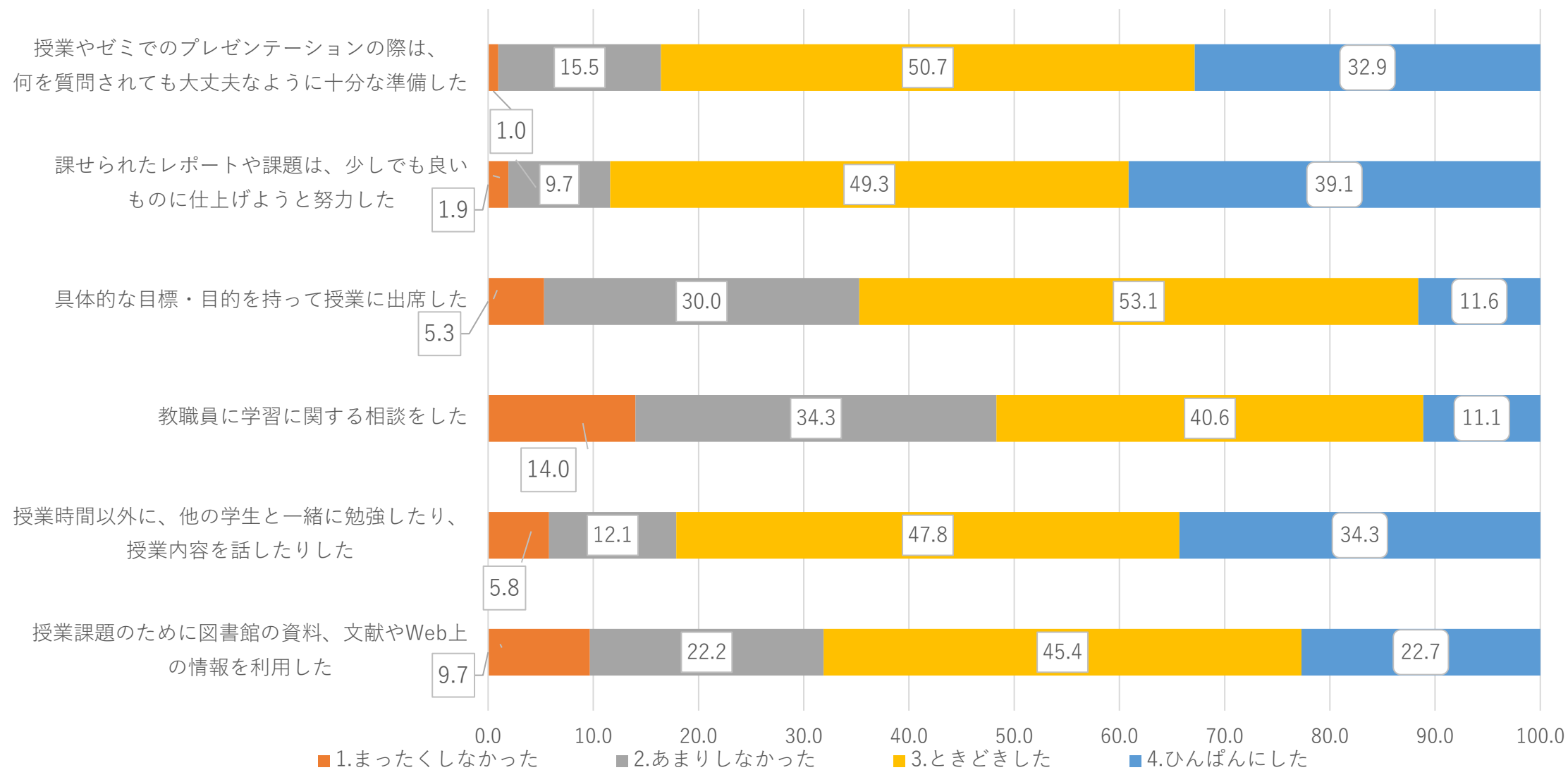


2023年度 卒業時アンケート

外国語学部

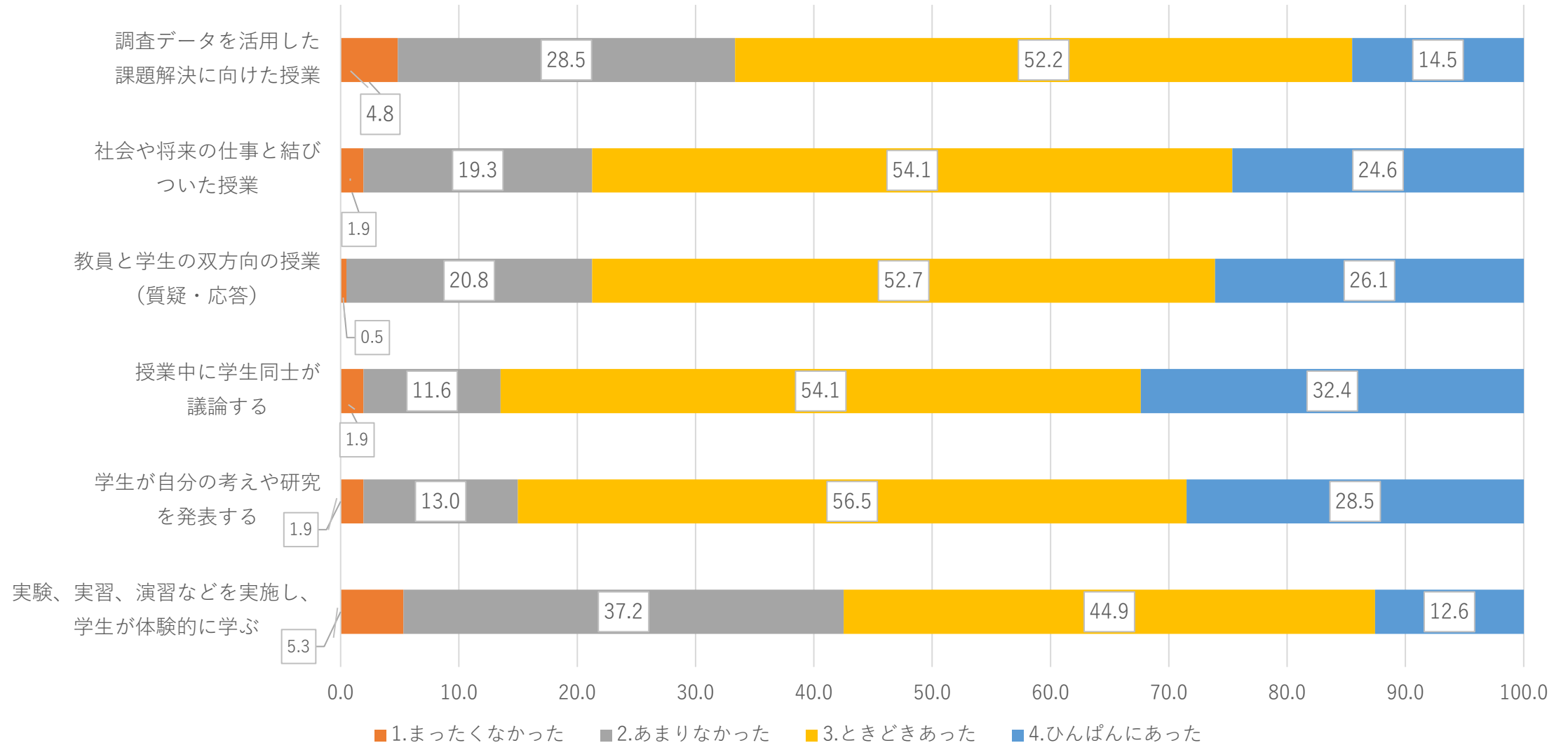
学習態度・行動

単位：％



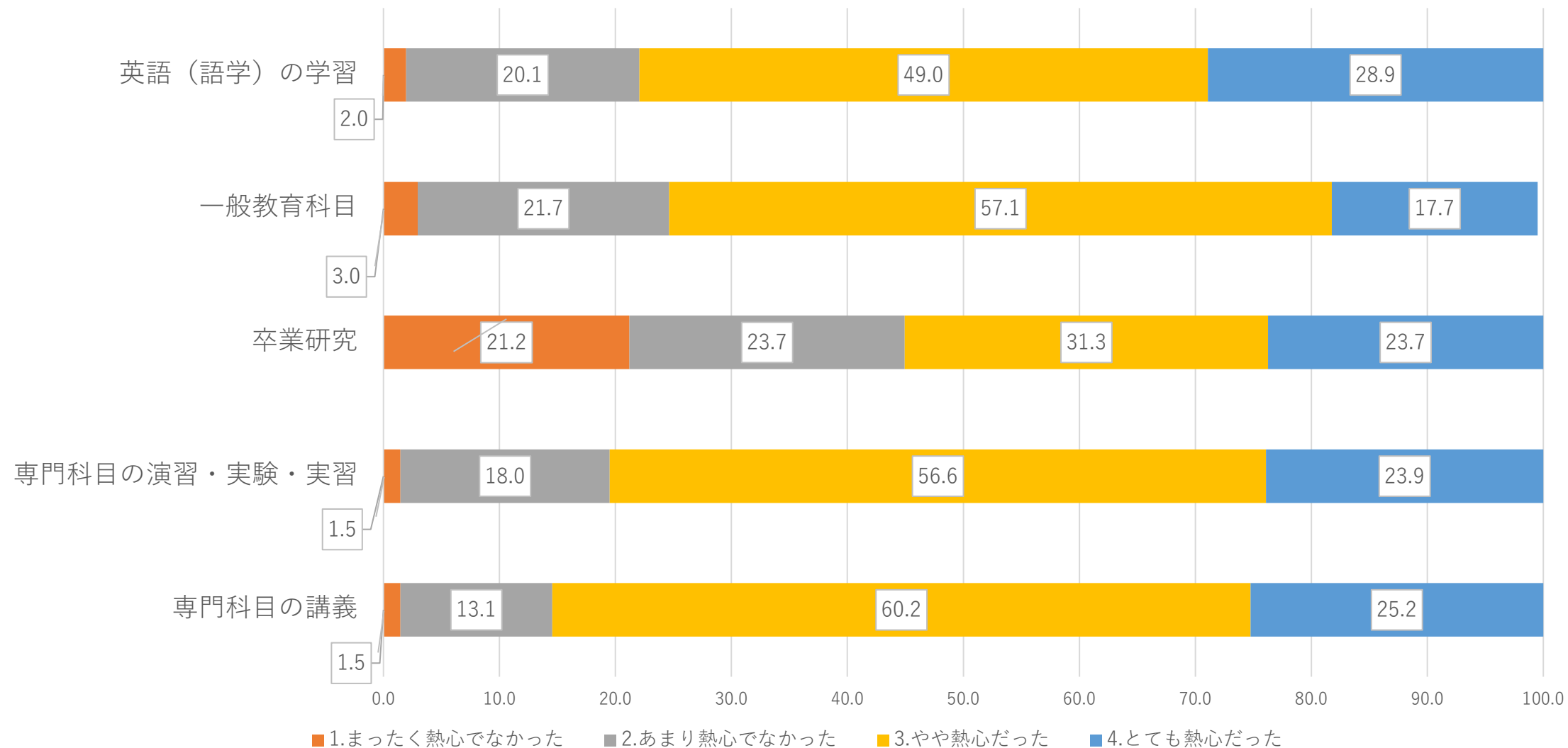
学習経験・機会

単位：％



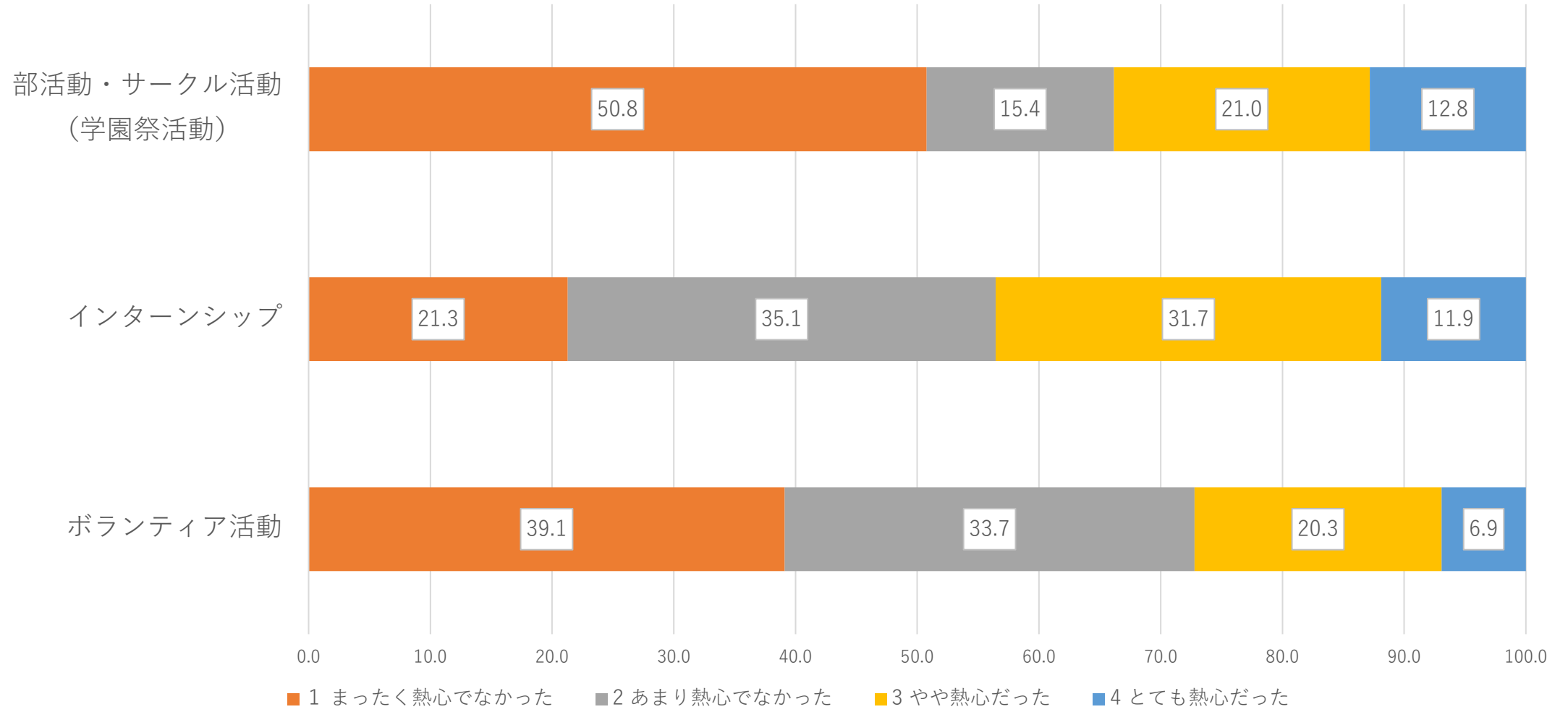
正課教育 学習意欲

単位：％



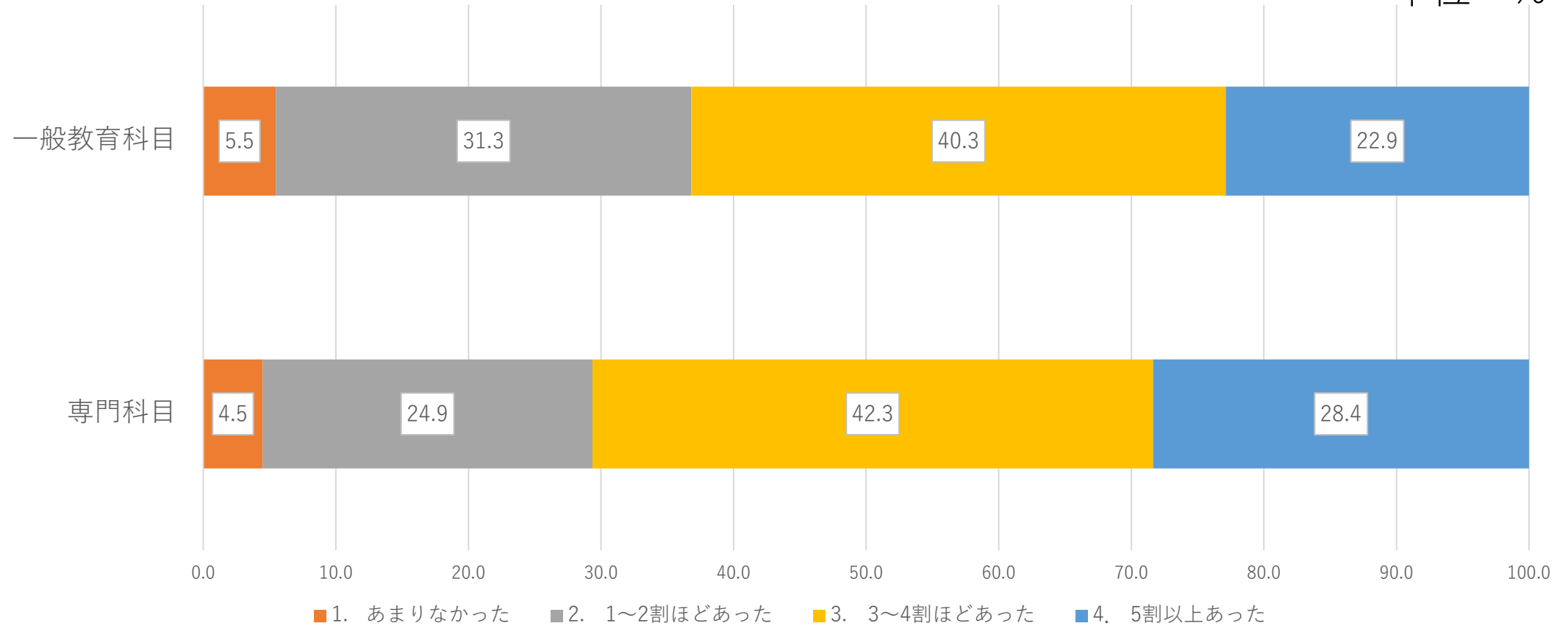
正課外活動意欲

単位：％



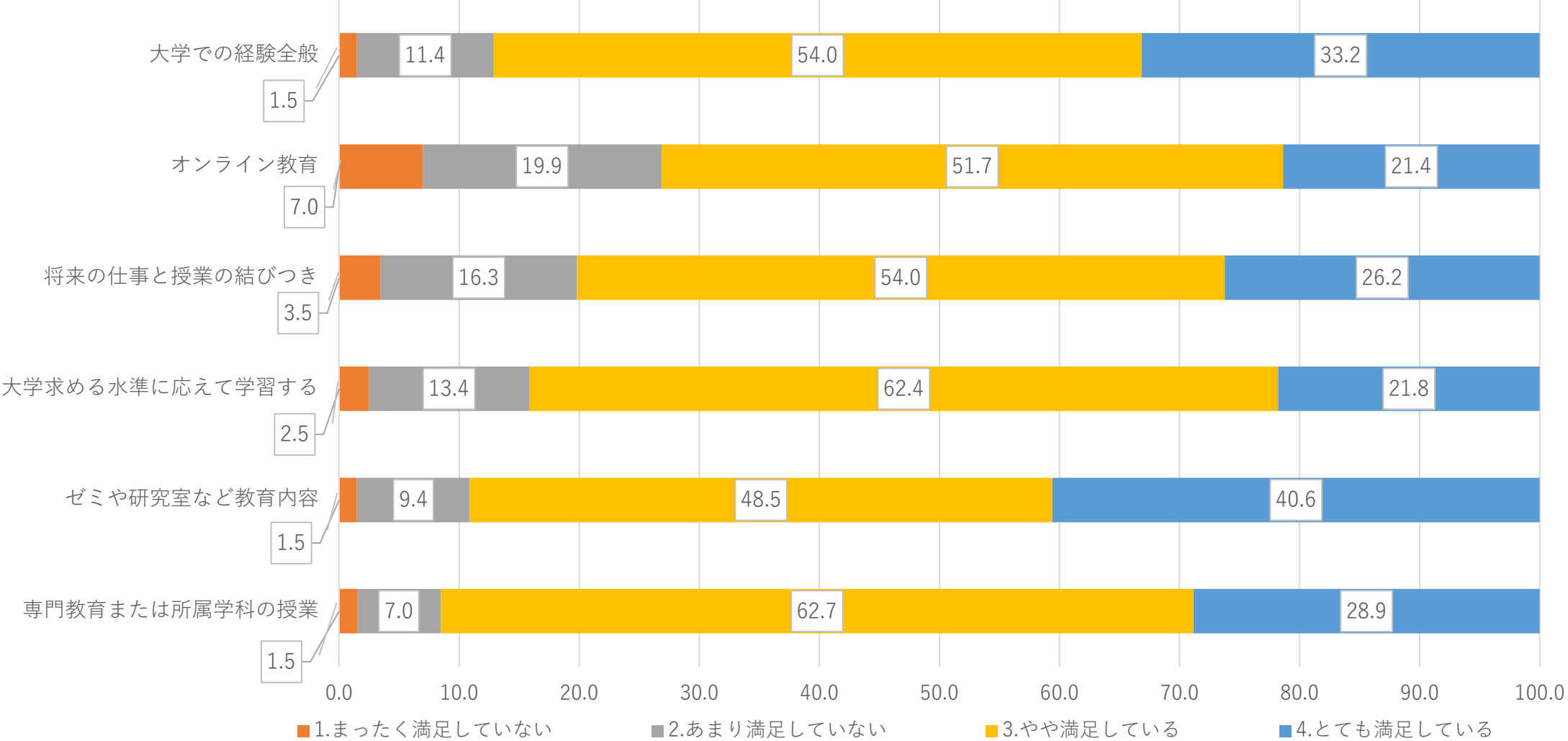
一般教育科目・専門科目 興味・関心

単位：％



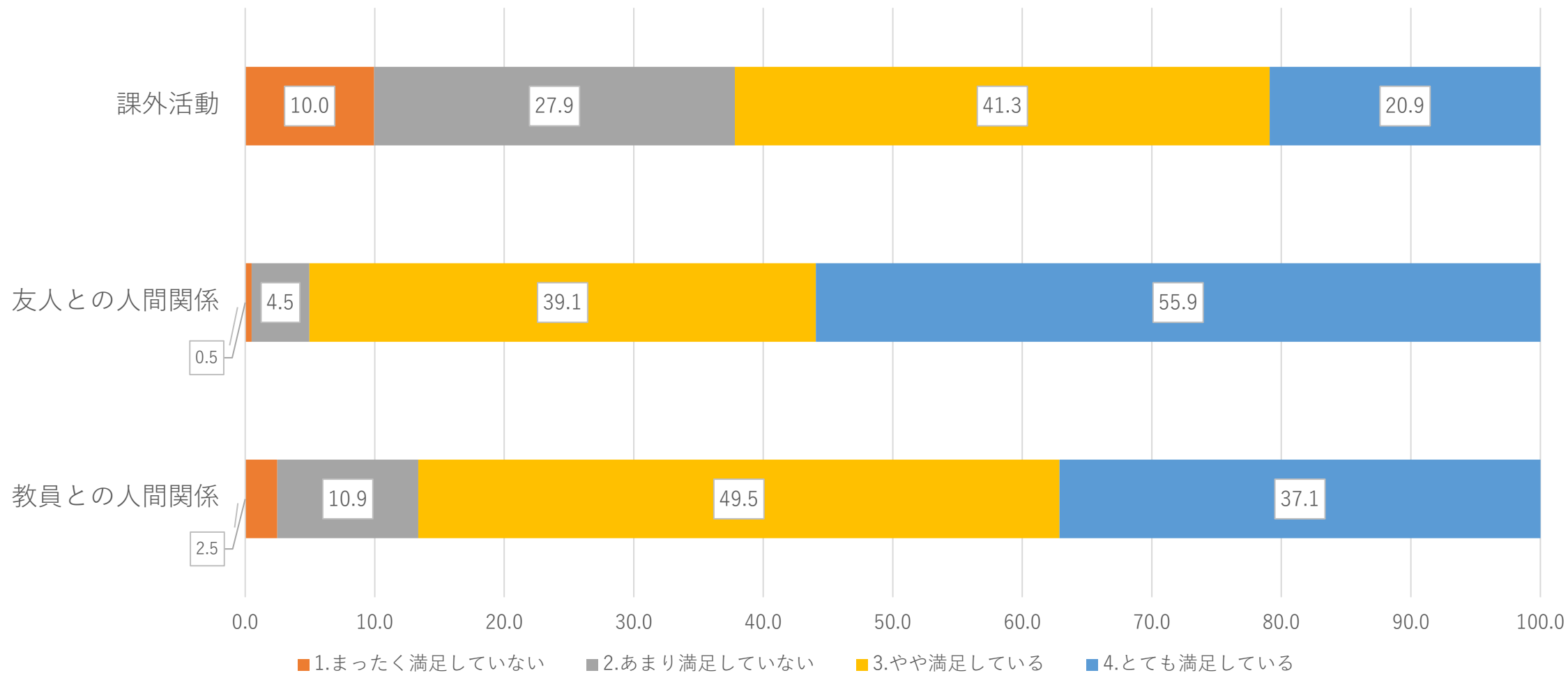
教育内容 満足度

単位：％



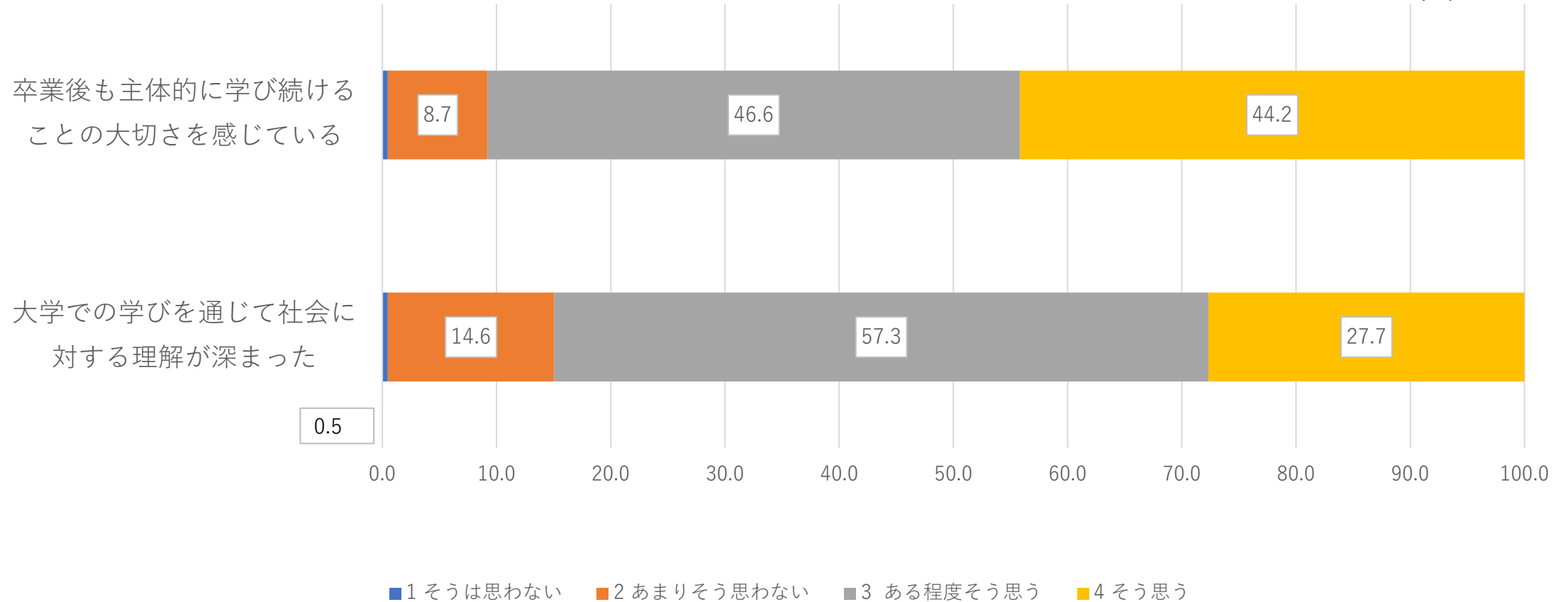
人間関係・部活動 満足度

単位：％



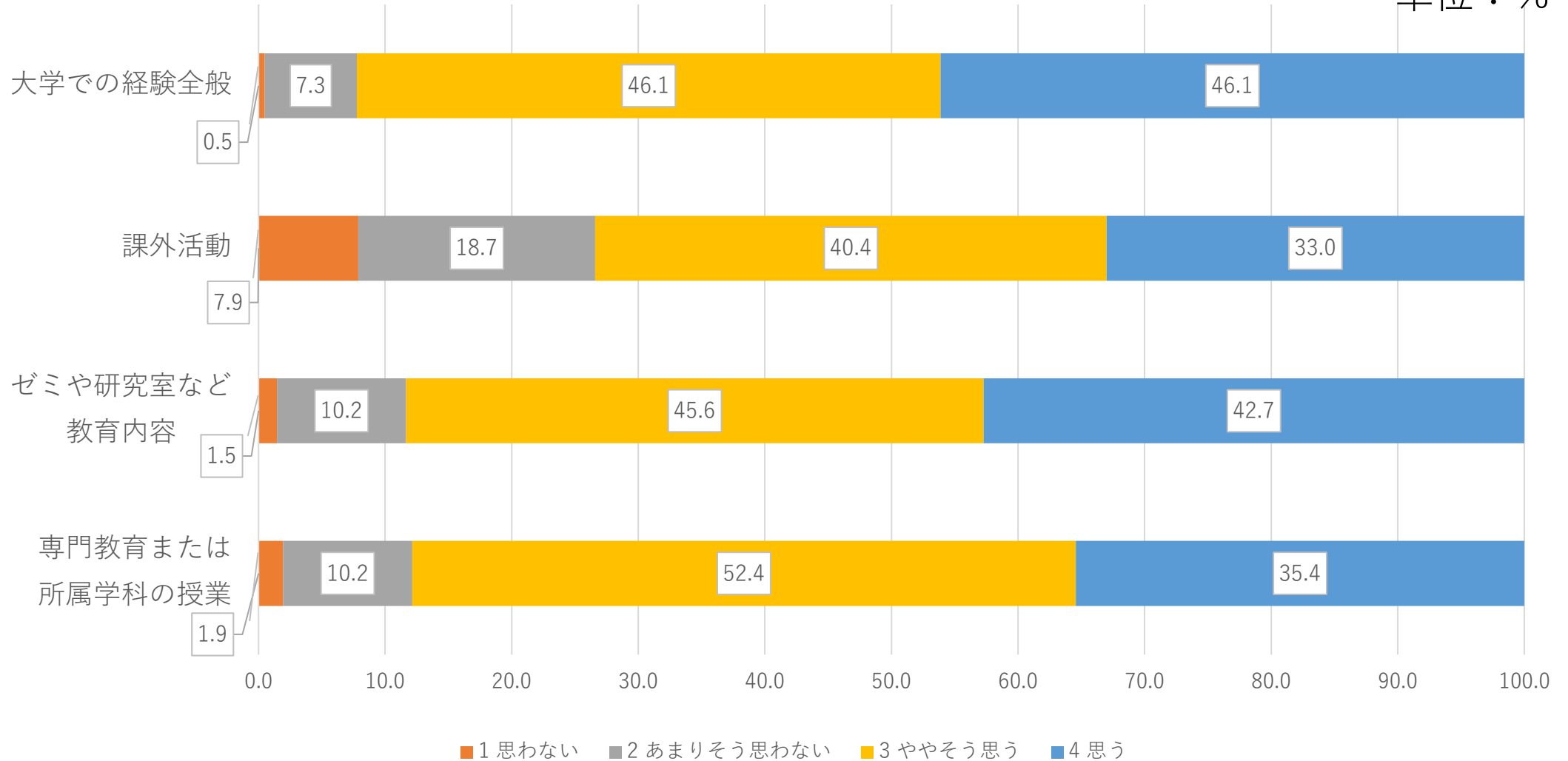
社会性・学びの継続

単位：％



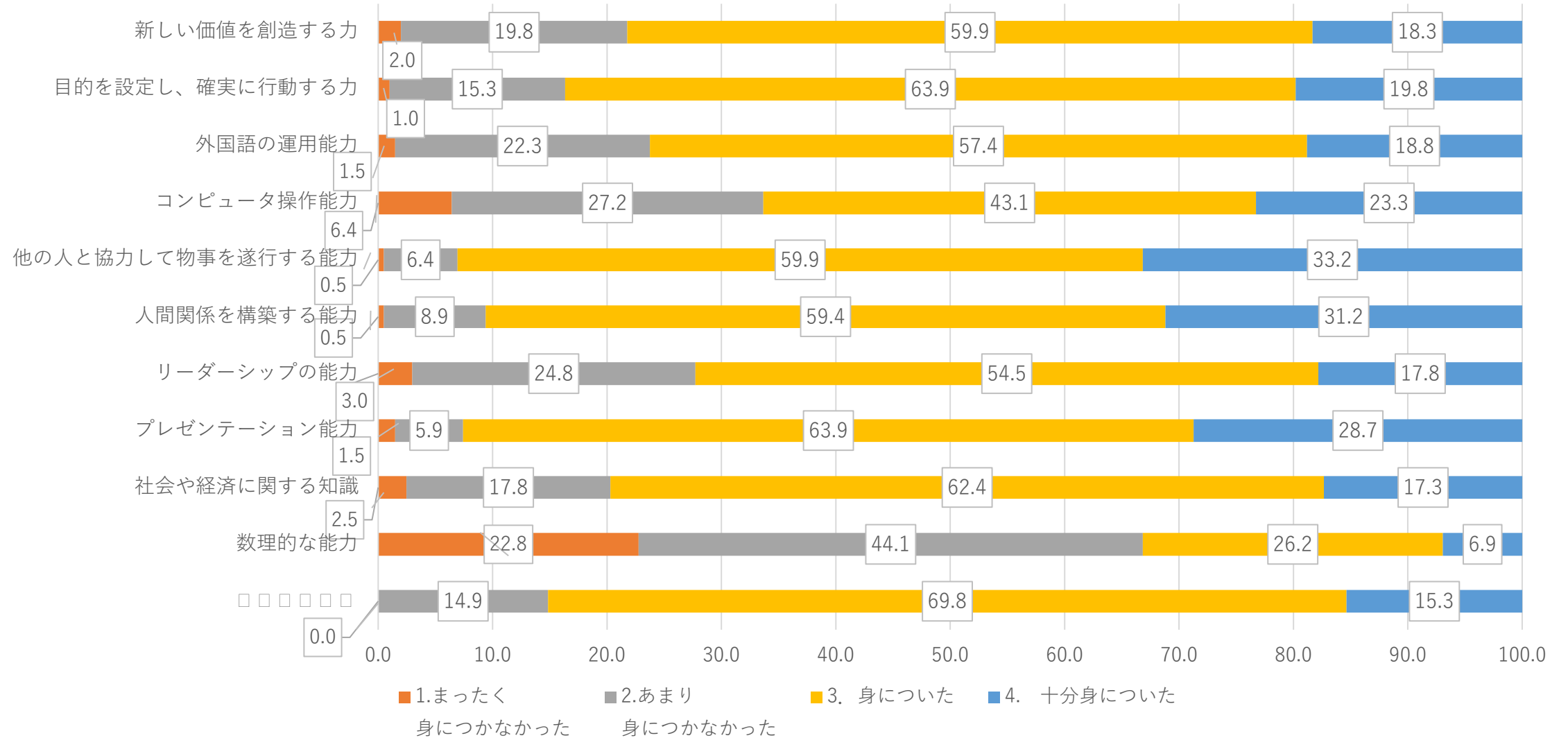
成長実感

単位：％



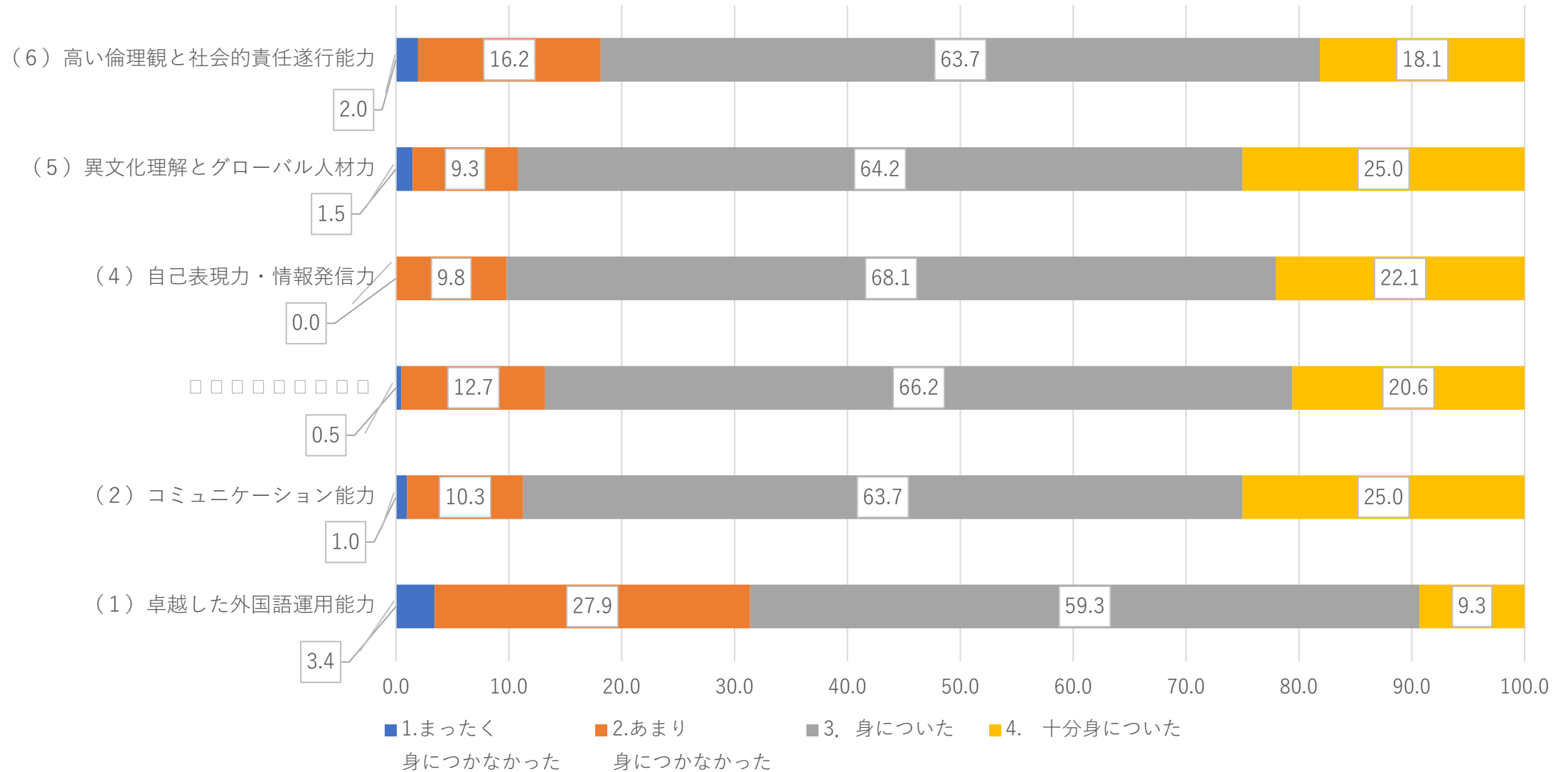
卒業時の知識・能力

単位：％



外国語学部 ディプロマ・ポリシーに定められた能力

単位：％



総評：外国語学部

大半の卒業生が積極的に学び、大学生活に満足して卒業したことが窺えるアンケート結果だった。入学年度から新型コロナウイルス感染症の影響を受けた卒業生ではあったが、授業中に学生同士が議論し、自分の考えや研究を発表する機会を得られたと感じた割合は85%以上となり、学部が推進するアクティブラーニングが各授業でしっかり実施されていたことが推察される。また、教育内容や学生生活に対する満足度も、例年同様高い数値を維持することができた。大学入学時から制限の多い期間を経験しながらも、多くの学生がディプロマポリシーに定められたほぼ全ての能力を身につけられたと実感している。ただし「卓越した外国語運用能力」に関しては、身につけられたと感じる卒業生が7割弱であったため、今後少しでもそうした学生を増やせるよう学部全体で注力すべきであろう。

昨年度と比べ「学習態度・行動」は全体的に改善がみられたが、教員に学習相談をした学生が5割強程度に留まった。また、目的意識を持って授業に臨んだ学生の割合は前年度より高かったが、依然として7割に満たない。ほとんどの学生が教員との関係や授業に満足してるが、日々目的を持って行動し、教員を含めた大学全体を最大限に活用していれば、在学中にもっと可能性を拡げられ、より充実した学生生活を送ることができたのではないかと考える。学生の内面を育て、より積極的な行動を促すことは容易ではないが、これからの大学教育には「教」えるばかりでなく、「育」てることを含めた教育力が求められるだろう。しかし、そうした教育は教員から学生への一方通行では実現しない。外国語学部としては、昨年度発足した外国語学部学生会を活性化させ、学生との共同作業でより良い教育環境を整えていきたい。